川崎市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

川崎市の
プラスチック資源循環の取組

2023年2月2日

川崎市環境局生活環境部廃棄物政策担当

目　次

1.川崎市について

2.川崎市のごみ排出量等の推移

3.川崎市一般廃棄物処理基本計画・第３期行動計画

4.プラスチックごみに係る国内外の動向

5.プラスチック資源循環に向けた本市の状況・取組

本市の主な取組
- プラスチック資源循環への対応方針の策定
- プラスチックごみの一括回収
- 分別率向上に向けた広報の取組
- 給水スポット導入実証事業
- かわさきプラスチック循環プロジェクト

6.川崎市産業廃棄物処理指導計画

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th

住む人が増え続けるまち

人口は、2017年に150万人を突破し、2019年には神戸市の人口を上回り、政令指定都市で6番目に人口の多いまちとなりました。

2023年1月1日現在の人口は　**1,540,516**人となっています。

川崎市の特色

スポーツのまち

○かわさきスポーツパートナー
　川崎フロンターレ（サッカー）
　川崎ブレイブサンダース（男子バスケットボール）
　NECレッドロケッツ（女子バレーボール）
　など

音楽のまち

○東京交響楽団（フランチャイズオーケストラ）
○かわさきジャズ

映像のまち

○日本映画大学、シネコンなどが立地
○市内ロケ

多様性の尊重

○ブランドメッセージ（Colors, Future!いろいろって、未来。）
○かわさきパラムーブメント

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

「最幸（さいこう）のまち かわさき」　を目指しています…

1.川崎市について

川崎市の強み

ものづくり都市・研究開発都市

従業者１人当たり
製造品出荷額等：**第１位！**

学術研究、専門・技術
サービス業の従業者割合：**第１位！**

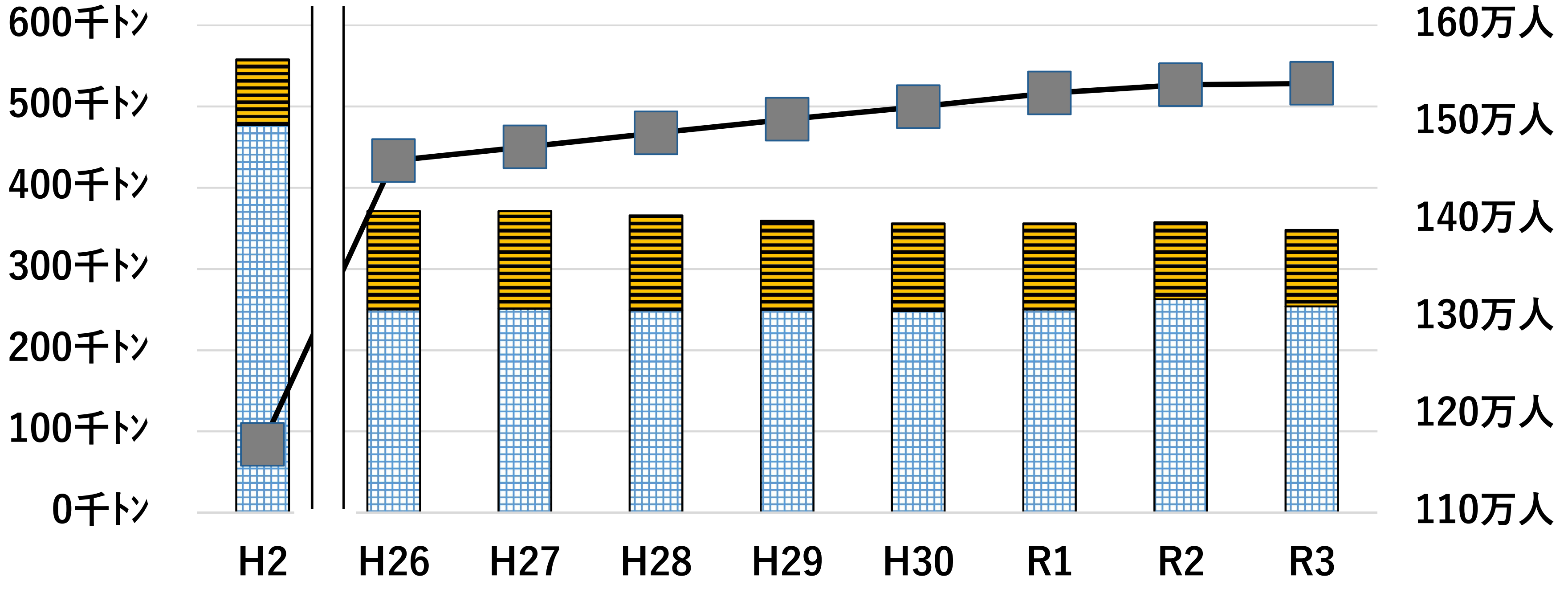
（平成30年度大都市データランキング）

川崎市は
市民・事業者と協働して環境対策　を行っています。

1.川崎市について

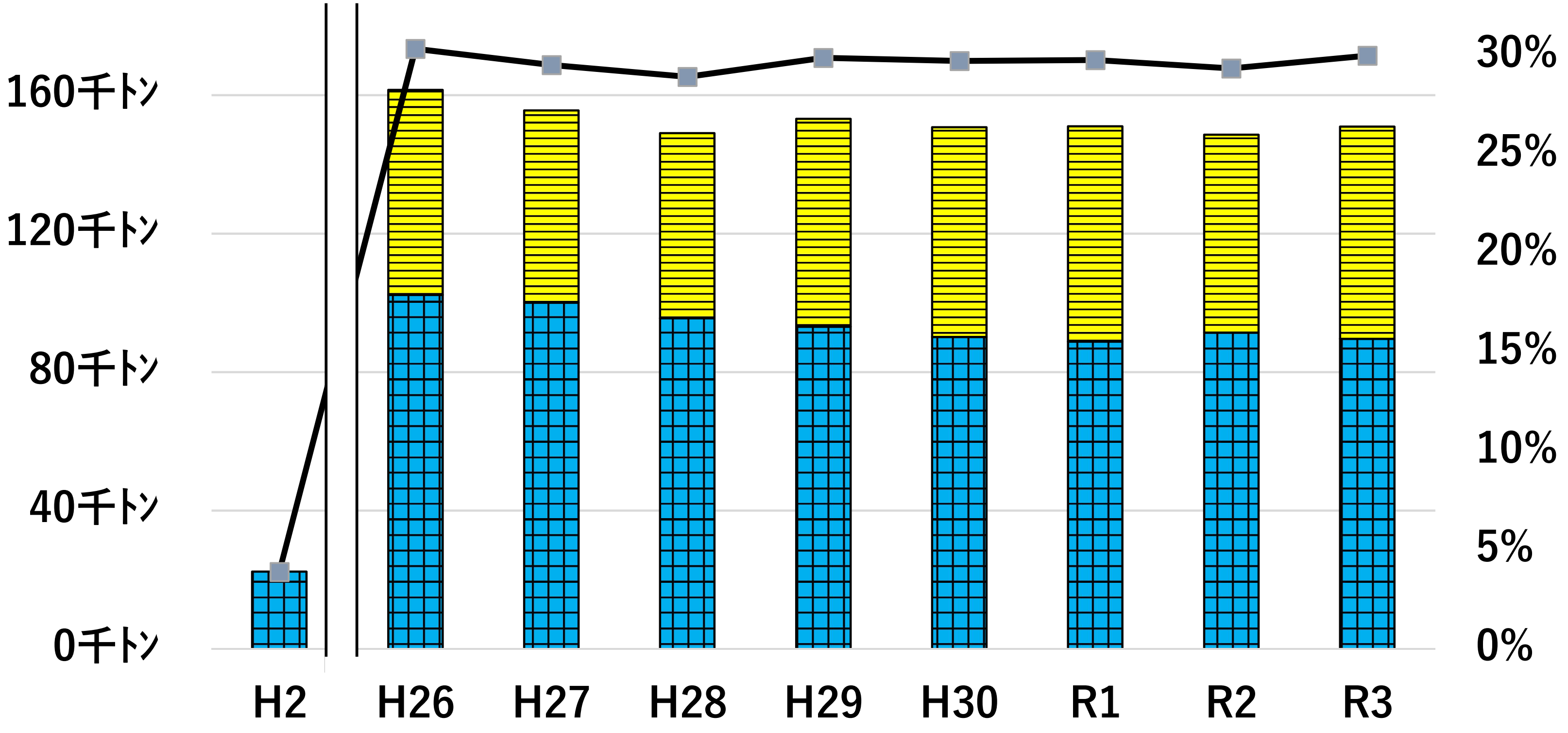
2024年、川崎市は市制100周年をむかえます。

人口と焼却ごみ量の推移



項　目		H2	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
焼却ごみ全体(t)		554,371	370,849	371,270	366,016	359,169	356,233	356,044	357,662	348,017
内訳	家庭系焼却ごみ(t)	473,385	249,626	251,273	249,303	249,632	248,295	250,239	262,744	254,060
	事業系焼却ごみ(t)	80,986	121,223	119,997	116,713	109,537	107,938	105,805	94,918	93,957
	人口(万人)	117	146	148	149	150	152	153	154	154

資源化量と資源化率の推移



項目		H2	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
資源化量全体(t)		22,352	161,541	155,552	148,983	153,125	150,678	150,991	148,595	150,927
内訳	家庭系資源化物(t)	22,352	102,298	100,021	95,524	93,129	90,142	88,758	91,388	89,615
	事業系資源化物(t)	0	59,243	55,531	53,459	59,996	60,536	62,233	57,207	61,300
資源化率(%)		4%	30%	30%	29%	30%	30%	30%	29%	30%

3.川崎市一般廃棄物処理基本計画、第３期行動計画

Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市 COLORS, FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

○「廃棄物処理法」では市町村に対し、域内の一般廃棄物の処理に関する計画の策定が義務づけられており、本市においても基本的な考え方や方向性を定めた「一般廃棄物処理基本計画」を策定

○基本計画に基づき、具体的な施策を定めた「一般廃棄物処理基本計画第３期行動計画」を2022年３月に策定

基本理念

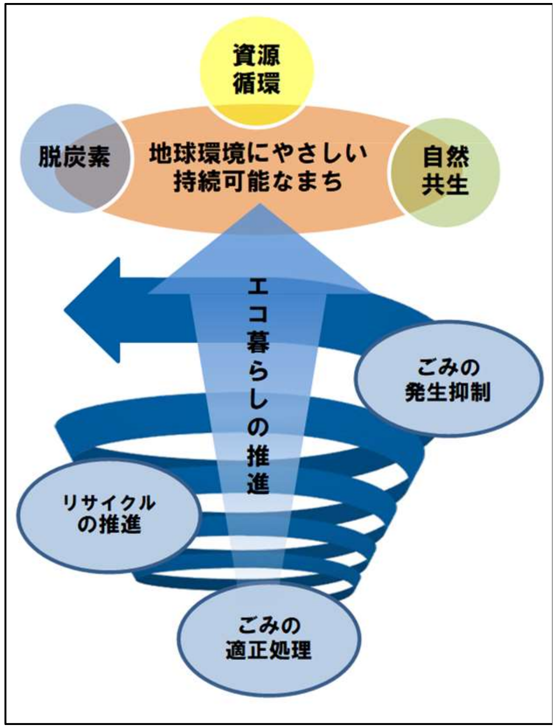
地球環境にやさしい持続可能なまちの実現をめざして

基本方針

①社会状況の変化等に的確に対応し、限りなくごみをつくらない社会を実現します

②市民・事業者・行政の協働により"エコ暮らし"を実践し、さらに３Ｒを推進します

③安心して健康に暮らせる快適な生活環境を守ります



3.川崎市一般廃棄物処理基本計画、第３期行動計画

背景

- 人口の増加
- 生活様式の変化

→ ごみ排出動向の変化

- ごみ焼却量削減の必要性
- 超高齢社会への対応等、社会ニーズへの対応

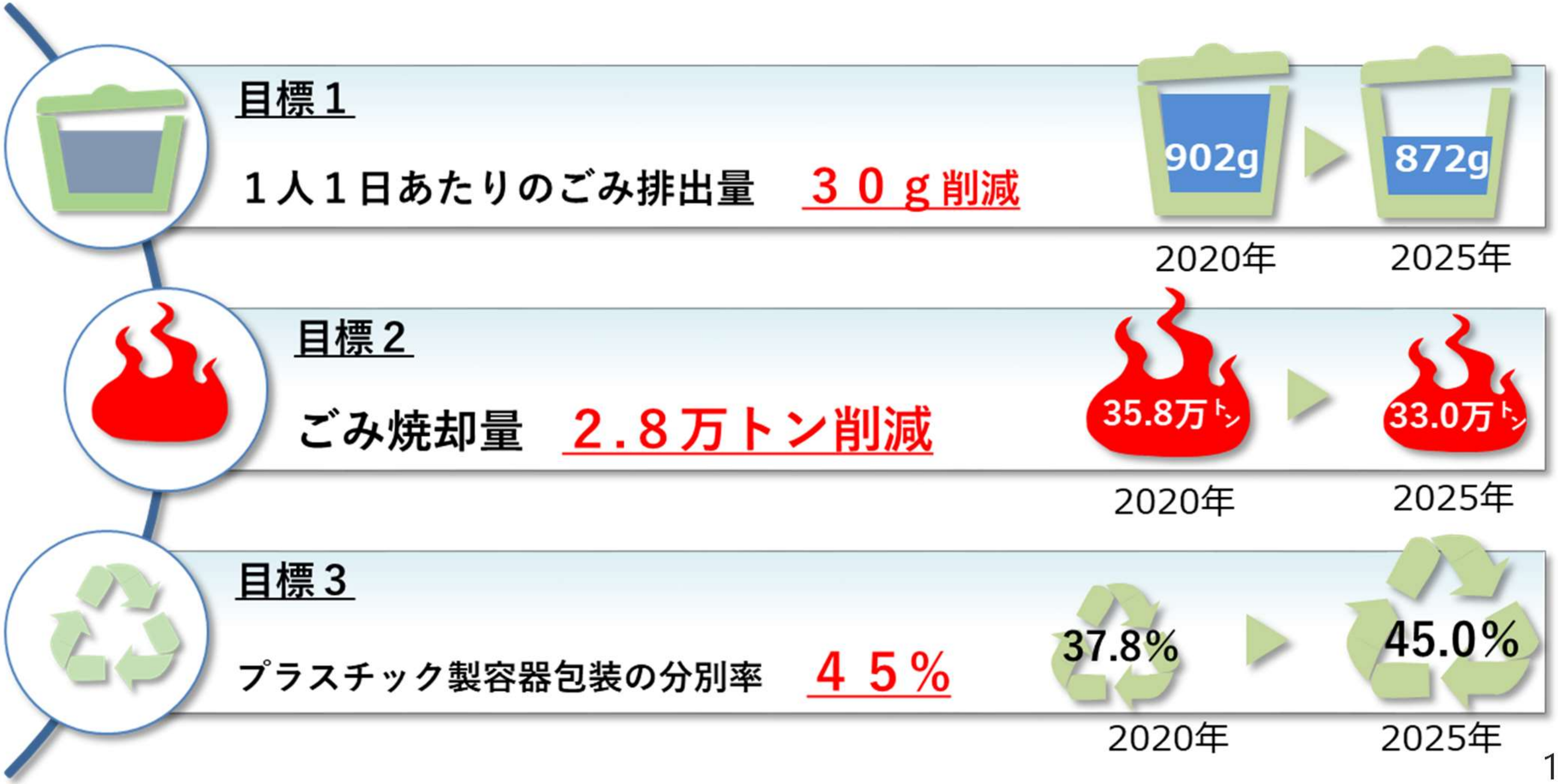
○資源循環・脱炭素・自然共生の統合的な取組による
　持続可能な社会の構築
○環境負荷の少ない２Ｒ（リデュース・リユース）の推進
○良好な生活環境・まちの美化向上
○効果的な事業執行体制の構築
○社会状況の変化等を見据えた対応

これらの視点を踏まえ第３期行動計画を策定

Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市
COLORS, FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

目標

- できるだけごみを発生させないライフスタイル
- 安定的な廃棄物処理体制の運営や最終処分場のさらなる延命化
- 廃棄物分野における脱炭素化の推進



4.プラスチックごみに係る国内外の動向

背景

○近年では、プラスチックごみによる海洋汚染が国際的な問題となっており、ＳＤＧｓにおいても目指すべき目標の１つとして掲げ、地球規模での対応が必要

○国内では適正処理・３Ｒを率先する一方、１人当たりの容器包装廃棄量が世界で２番目に多く、また、アジア各国での輸入規制等の課題が生じている

ＳＤＧｓゴール14
海洋・海洋資源の保全

国内外の取組

○「プラスチック資源循環戦略」の策定　（2019年５月）

○ G20「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」表明　（2019年６月）

○「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」
（プラスチック資源循環法）施行　（2022年４月）

Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市 COLORS FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

プラスチック資源循環戦略

○基本原則： 3 R＋Renewable
(リデュース、リユース、リサイクル＋再生可能資源の活用)

○６つのマイルストーンを野心的な目標として設定

マイルストーン

<リデュース>
①**2030年までに**<u>**ワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制**</u>

<リユース・リサイクル>
②**2025年までに**リユース・リサイクル可能なデザインに
③**2030年までに**<u>**容器包装の６割をリユース・リサイクル**</u>
④**2035年までに**<u>**使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効利用**</u>

<再生利用・バイオマスプラスチック>
⑤**2030年までに**再生利用を<u>**倍増**</u>
⑥**2030年までに**<u>**バイオマスプラスチックを約200万t導入**</u>

5.プラスチック資源循環に向けた本市の状況・取組

川崎市地球温暖化対策推進基本計画

- 脱炭素社会の実現に向けた国内外の動向を踏まえ、川崎市における脱炭素化の取組を一層加速化させるため、2022年3月に計画を改定
- 市役所全体では約40万t-CO2の温室効果ガスを排出
- 市域では７番目に排出量が多く、民生系部門において最大

【基本理念】 **『将来世代にわたって安心に暮らせる脱炭素なまちづくり』**と**『環境と経済の好循環による力強い産業づくり』**に挑戦

【基本的方向】

Ⅰ 市民・事業者などあらゆる主体が脱炭素化に取り組んでいるまち→**7施策**	Ⅴ 市役所が自ら率先して脱炭素化にチャレンジしているまち→**7施策**
Ⅱ グリーンイノベーションで世界の脱炭素化に貢献するまち→**5施策**	Ⅵ 脱炭素化に向けた資源循環に取り組んでいるまち→**3施策**
Ⅲ 再生可能エネルギーを最大活用しエネルギー最適化しているまち→**3施策**	Ⅶ 気候変動に適応し安全で健康に暮らせるまち→**3施策**
Ⅳ 地球にやさしい交通環境が整備されたまち→**4施策**	Ⅷ 多様なみどりが市民をつなぐまち→**4施策**

【2030年度目標】

市域目標　**2030年度までに▲50%削減（2013年度比）**

↓

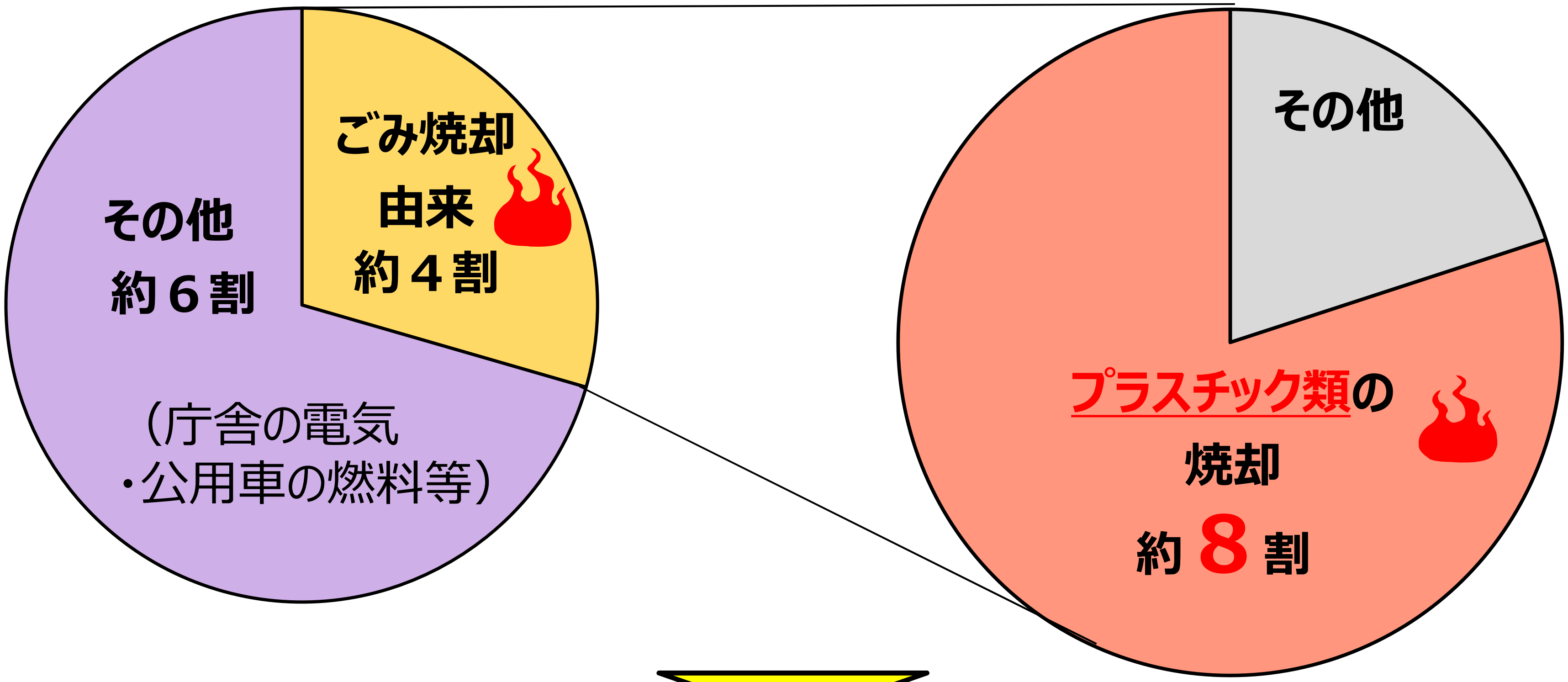
市役所目標(個別目標) 2030年度までに▲50%以上削減（2013年度比）

5.プラスチック資源循環に向けた本市の状況・取組

現状

○市役所が排出する温室効果ガス排出量の約4割がごみ焼却由来で、
そのうち約8割がプラスチック類の焼却由来となっている

市役所の温室効果ガス排出状況（内訳）2019年度実績



プラスチック資源循環に向けた取組が重量

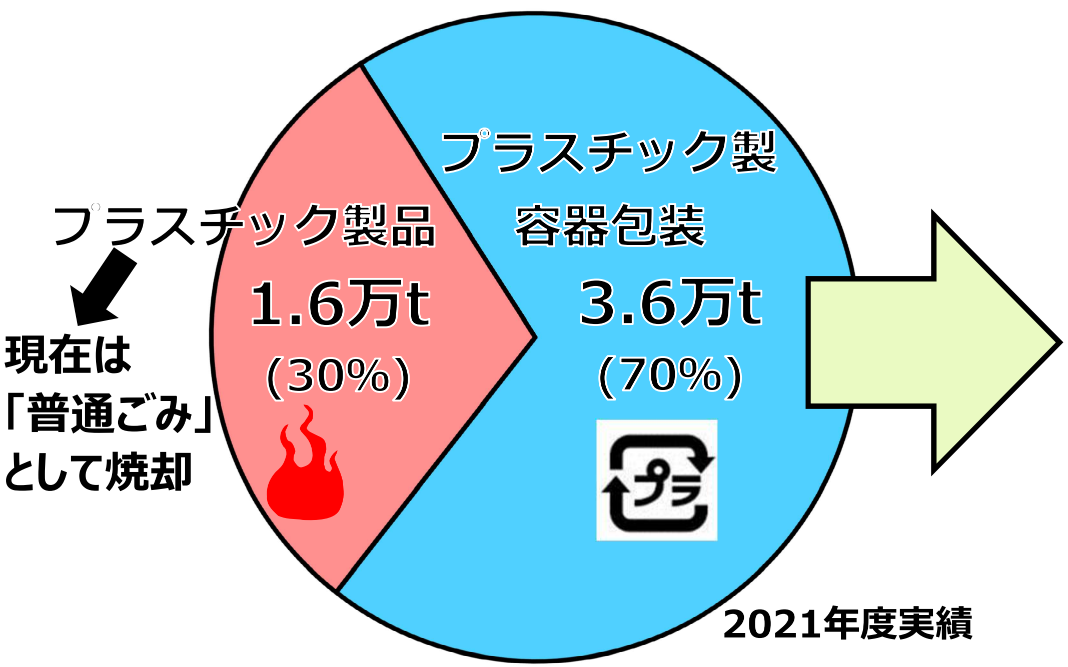
5.本市の主な取組：プラスチック資源循環対応方針の策定

『プラスチック資源循環への対応方針』を策定(2020年11月)
プラスチックごみを取り巻く課題に総合的かつ迅速に取り組むため、「基本的な考え方」や「対応の方向性」「当面の取組」などについて取りまとめた方針

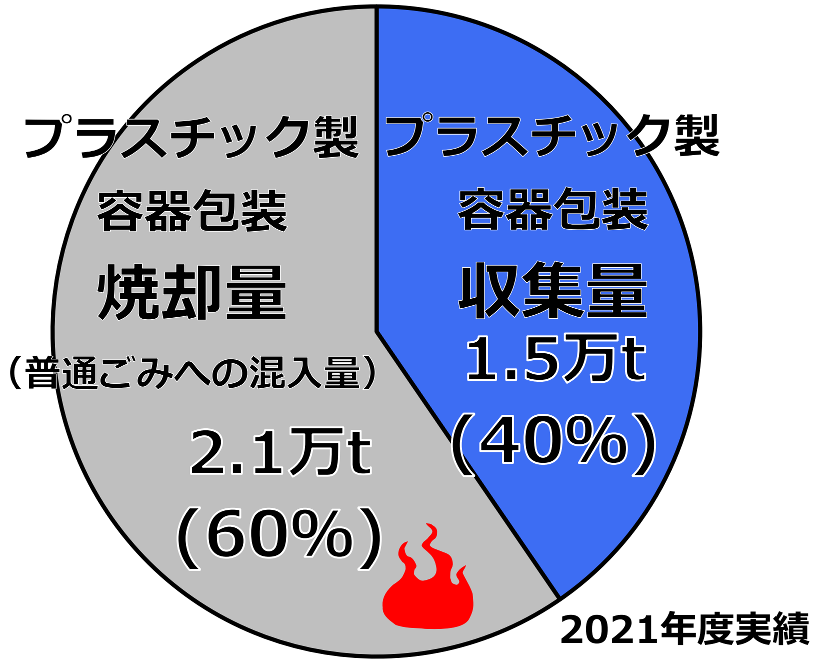
『川崎市プラスチックごみの削減に向けた庁内率先行動指針』を策定(2020年4月)
まずは<u>市自らが先導的に取り組み、率先行動を示す</u>ことで、市民や事業者等の取組促進につなげていくことを目的に策定

具体的な取組の一例
- 庁内会議ではペットボトル原則禁止
- グリーン購入適合品の積極的な調達
- 市が運営するイベントでの使い捨てプラ製品の利用削減

5.本市の主な取組：プラスチックごみの一括回収



家庭から排出されるプラスチックごみ



プラスチック製容器包装の収集量と焼却量

○本市では家庭から排出される「**プラスチック製品**」は**普通ごみとして焼却**処理
○家庭から排出の「**プラスチック製容器包装**」は**約６割が普通ごみに混入し焼却**
⇒プラスチックごみの多くを焼却している状況

プラスチック資源循環法の施行により家庭から出る「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」を一括で回収しリサイクルすることが可能となった

プラスチックごみのリサイクルの推進に向けて検討を開始

実証事業の実施

プラスチック製容器包装　と　**プラスチック製品**を**一括で回収**する**実証事業**を2021年と2022年に実施

●第1回実証事業

脱炭素先行地域（第１回）に選定

【期間】2021年11～12月
【対象】**脱炭素アクションみぞのくち**エリア内（高津区内）の大規模集合住宅
【概要】組成の変化等の把握・民間事業者を活用した処理の検討

●第2回実証事業

【期間】2022年６～７月
【対象】川崎区の戸建て住宅が多いエリア
【概要】組成の変化等の把握・市施設を活用した処理の検討

●結果

- 一括回収によって**プラスチックごみの全体の回収量が増加**
- **分別ルールが分かり易くなった**ことによる相乗効果により**プラスチック製容器包装の回収量も増加**
- アンケートでは**大多数**の方から**「一括で回収して欲しい」**と回答があり、「対象となるプラスチック製品の例が多く示されていると分別がしやすい」という意見が多くあった

５.本市の主な取組：プラスチックごみの一括回収

サウンディング型市場調査

プラスチック資源循環法において、

日本容器包装リサイクル協会に再商品化を委託する手法（容リ協ルート） に加えて

市町村が事業者と独自に再商品化計画を作成し認定を受けることで
再商品化を行う方法（大臣認定ルート）

による再商品化が可能となった

大臣認定ルートの活用に向け、リサイクルの担い手となる民間事業者の活用の可能性を調査するため、2022年８月にサウンディング型市場調査を実施（市に所在する５社が参加）

【事業者からの主な意見】

- 国の「プラスチック使用製品廃棄物の分別収集の手引き」のプラスチック使用製品廃棄物は全て受入可能である。（複数意見）
- 受入量は、市内全域の家庭系プラスチックごみの受入が可能である（複数意見）
- 受入可能時期は、最速でも2024年度以降であるという意見や、設備の設置を行い2025年度から受入可能という意見
- 市内プラスチックリサイクラー複数と連携することで資源化率の向上や相互のバックアップ体制の確立、輸送に伴うCO_2の削減が可能

5.本市の主な取組：プラスチックごみの一括回収

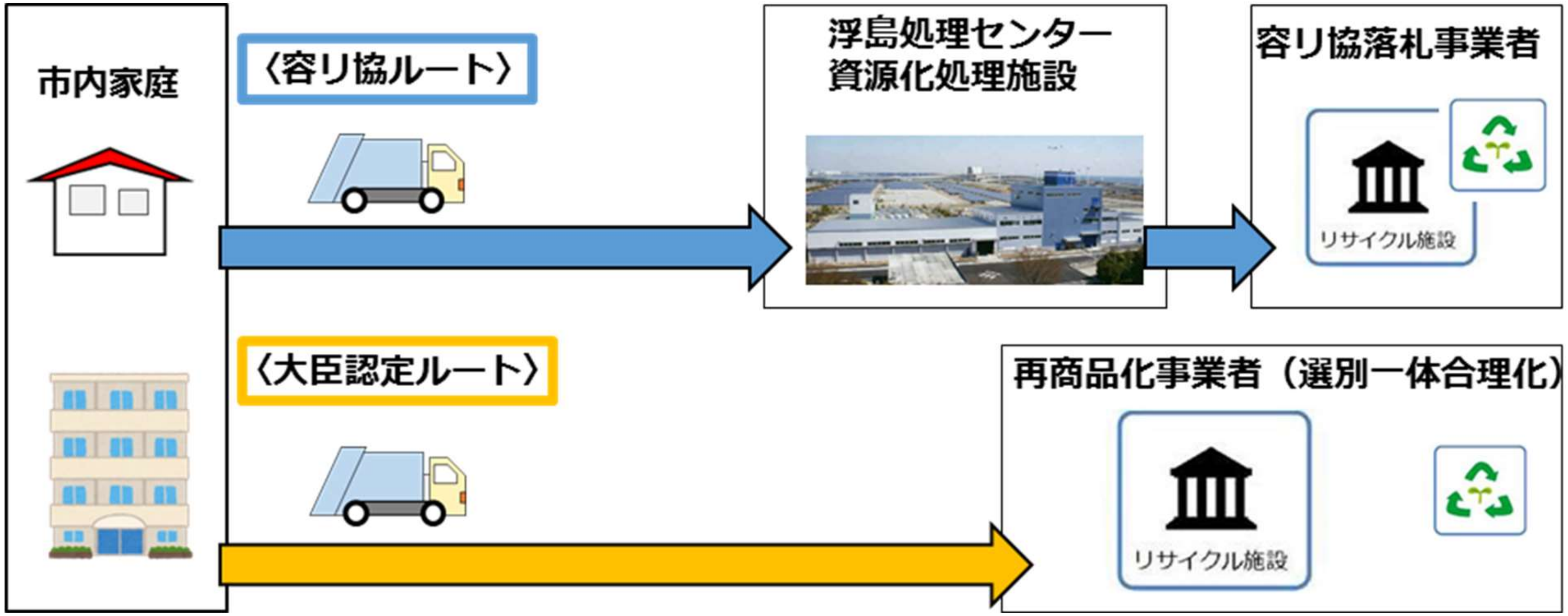
事業展開案

●2024年度に一部地域での先行実施

●2025年度以降、対象地域を順次拡大する。

事業イメージ(現時点での検討案)

●開始後は、容リ協ルート　と　大臣認定ルートを併用



5.本市の主な取組：分別率向上に向けた広報の取組

Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市
COLORS FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

〇資源源物の分別率向上に向けて、廃棄物減量指導員をはじめ、地域と連携してごみ排出のルールの徹底を図るとともに、行動科学に基づく手法を活用した取組も推進

ナッジとは

・「注意を引くために肘で軽く突く」という意味合い。現在、企業広告や保険商品等でも活用されており、強制力に寄らず、社会をより良い方向に導く手法として注目を集めている。

５.本市の主な取組：給水スポット導入実証事業

○ペットボトル等の使用を減らし、環境に配慮したライフスタイルへの転換のために、マイボトルの利用促進に向けてウォータースタンド株式会社と協定を締結し、市内の公共施設等に給水スポットを導入する実証事業を実施

実証期間：2021年４月～2023年３月

事業概要：給水機の無償貸出を受け区役所や市民利用施設等に設置(約30施設)
良品計画（水アプリ）と連携広報を実施

利用実績：2022年12月末時点で約14万リットル

プラスチック資源循環を目指すプラットホームとして、
「かわさきプラスチック循環プロジェクト（かわプラ）」を2022年設立

目　的

- 市民、事業者、行政が実施している様々な**プラスチック資源循環や回収拠点などの取組を連携して推進**
- あらゆる主体が集まる**プラットホームとして、新たな取組を企画・展開**

2022年4月19日　設立（市長会見）

5.本市の主な取組：かわさきプラスチック循環プロジェクト

Colors, Future! 川崎市 COLORS FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

参加事業者（2023年2月現在）

JFE J&T 環境 株式会社

Asahi アサヒ飲料

イトーヨーカドー

JR JR東日本

PRT ペットリファインテクノロジー

SUNTORY

7 ELEVEn

JR東日本環境アクセス

5.本市の主な取組：かわさきプラスチック循環プロジェクト

事業内容

（１）川崎市をフィールドに市民・事業者・行政の協働によるプラスチック循環の取組の実施

（２）上記取組の関する情報収集と発信及びニーズ、シーズの把握と取組の実施支援

（３）その他、プロジェクトの目的を達成するために必要な事業

～具体的な展開～

・市民に分かり易く、市内リサイクラーの活用が見込めるペットボトルの水平リサイクルから先行的に取り組む

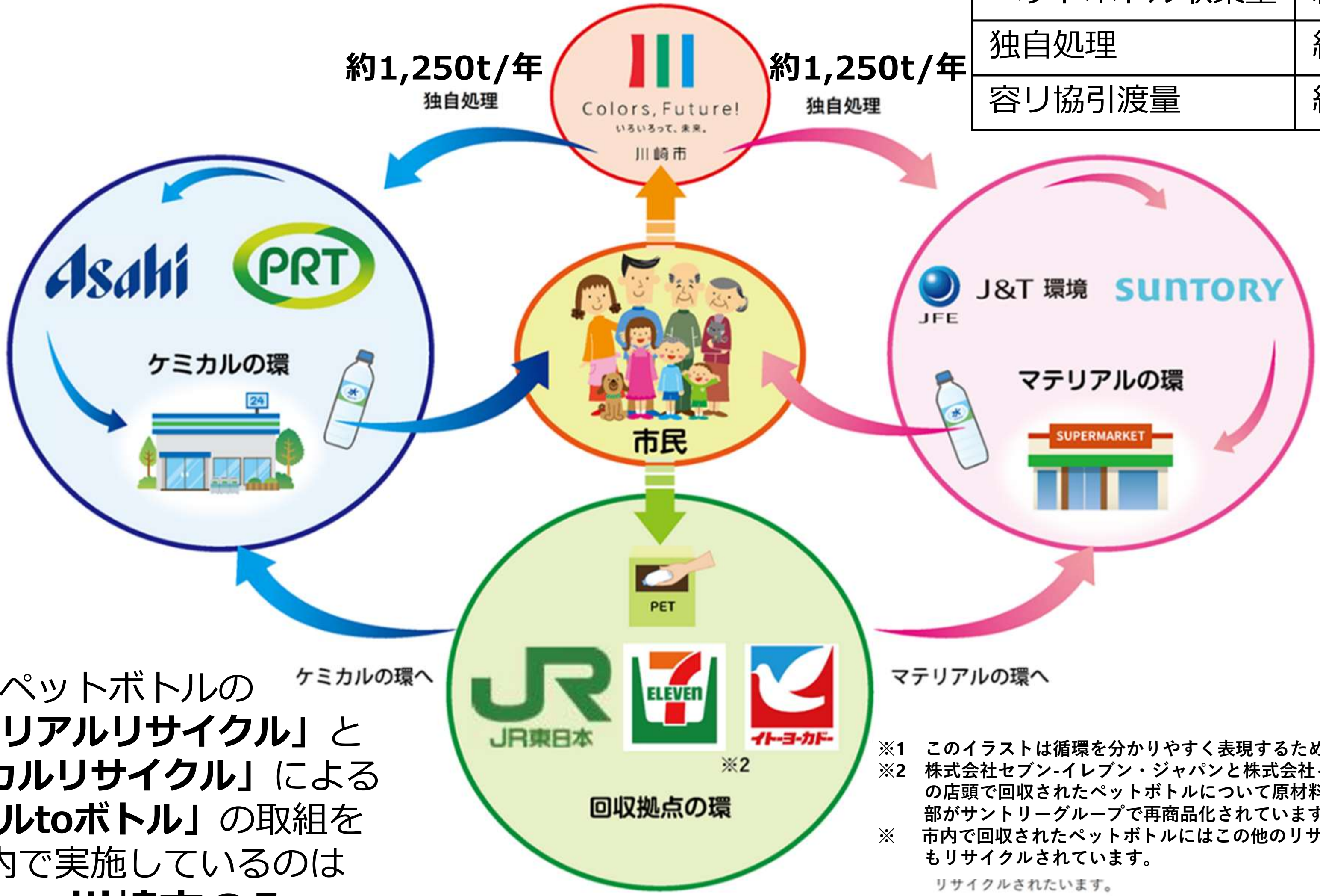
・その他のプラスチック（プラスチック製容器包装、プラスチック製品など）の様々なプラスチック循環のプロジェクトの検討・調整を実施

Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市

COLORS, FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

かわさきプラスチック循環プロジェクト 川崎モデルの3つの環 イメージ※1

ペットボトル収集量	約5,000t/年
独自処理	約2,500t/年
容リ協引渡量	約2,500t/年



ペットボトルの
「マテリアルリサイクル」と
「ケミカルリサイクル」による
「ボトルtoボトル」の取組を
市域内で実施しているのは
全国で**川崎市のみ**

※1　このイラストは循環を分かりやすく表現するためのイメージです。
※2　株式会社セブン-イレブン・ジャパンと株式会社イトーヨーカ堂の店頭で回収されたペットボトルについて原材料化したものの一部がサントリーグループで再商品化されています。
※　市内で回収されたペットボトルにはこの他のリサイクルルートでもリサイクルされています。
リサイクルされたいます。

5.本市の主な取組：かわさきプラスチック循環プロジェクト

●JR東日本・JR東日本環境アクセスの取組（2022年度）
市内駅で回収されたペットボトルを「かわプラ」の循環により、ペットボトルへ「水平リサイクル」

●廃プラスチックを水素にリサイクルし、鉄道等のエネルギー源として活用できるかを検証

循環型社会（サーキュラーエコノミー）で目指す資源の流れ

5.本市の主な取組：かわさきプラスチック循環プロジェクト

持続可能なリサイクル技術開発のため「かわプラ」の参加事業者等とも連携し、「食用油・調味料プラスチック容器」の拠点回収試験を2022年10月～11月下旬に実施

＜全体調整＞
・日清オイリオグループ
・J&T環境
・川崎市

＜回収拠点の場所の提供＞
・高津区役所
・地球温暖化防止活動推進センター
・JR武蔵溝ノ口駅周辺集合住宅
・イトーヨーカドー溝口店

＜広報支援＞
・JR武蔵溝ノ口駅

＜組成調査＞
・J&T環境(株)

＜リサイクル品質確認＞
・J&T環境(株)
・ペットリファインテクノロジー(株)
・昭和電工(株)

6.川崎市産業廃棄物処理指導計画

今後の産業廃棄物施策に関しては、更なる3Ｒや適正処理等の推進に加え、2050年の脱炭素社会の実現、プラスチック資源循環、災害廃棄物対策等への対応が求められていることから、2022年３月に新たな産業廃棄物処理指導計画を策定

基本理念

脱炭素化を見据えた安全・安心で持続可能な循環型社会の実現

施策の柱

- 脱炭素化の推進
- 災害・緊急時の廃棄物対策
- ３Ｒ・適正処理の推進
- 環境保全意識の向上

個別施策に
プラスチック資源循環の推進を位置付け

６.川崎市産業廃棄物処理指導計画

＜具体的取組１＞

『廃プラスチック類等の高度リサイクル処理施設の設置促進』

廃棄物処理業者の事業計画の見直しや施設の新規設置等の事前相談の機会を捉えて、高度リサイクル処理施設の設置を促進するとともに、施設の円滑な設置・稼働に向け、届出等の手続きなどの支援を実施する。

＜具体的取組２＞

『事業者と連携した使用済みプラスチックのリサイクルの促進』

使用済みプラスチックから水素等を製造するケミカルリサイクルなど、プラスチックに係る各種リサイクルの実証事業を排出事業者、処理業者、リサイクラー等と連携して実施することで、使用済みプラスチックのリサイクルを促進する。

ご清聴ありがとうございました